



るもい風土資産カード

# しよさんべつ海牛の化石

ほぼ完全な形で復元された  
日本で最も古い海牛類化石

昭和42年(1967年)に村内・明里で発見された「しよさんべつ海牛」の化石。その一部は発見後、村内の豊岬小学校に保管されてきました。平成2年(1990年)、この化石が大変貴重なものであることが分かり、5年間かけて化石の取り出しと復元作業が行われました。ほぼ完全な形で復元されたものとしては、日本で最も古い海牛類化石とされています。

ショサンベツカイギュウは1200万年前に生息していた海牛です。海牛は海草を主食とする水棲(せい)ほ乳動物でジュゴンやマナティーの仲間です。この海牛は出産直前だったようで、体内の赤ちゃん海牛の化石と一緒に発見されました。妊娠中の海牛化石は世界初の貴重な発見です。日本ではこれまで30点ほどの海牛類化石が発見されていますが、そのほとんどは冷たい海を好む海牛でした。ところが、ショサンベツカイギュウは、一緒に発見された珪藻(けいそう)化石や花粉化石などの分析によって、暖かな時代の暖かな海に棲んだ海牛であることが分かりました。また、頭の特徴からアメリカで発見される海牛化石よりヨーロッパで発見される海牛に近いことも分かりました。つまり、ヨーロッパから暖かな海を伝わって北海道までやってきたということになります。

当時、北海道周辺もショサンベツカイギュウたちが棲みやすい暖かな環境だったのかもしれませんが。この海牛のレプリカが、初山別役場に近い「自然交流センター」に展示されています。親子が寄り添う姿は、ほほ笑ましさとともに見学者を太古のロマンへといざなってくれます。

## 見どころ

ショサンベツカイギュウのレプリカは、初山別役場に近い自然交流センターに展示されています(館内での催事がない場合は土、日、祝日休館)。樹脂製のレプリカは母親が長さ5m、幅1.5m、赤ちゃんは長さ1.6m、幅0.4mのサイズで、迫力ある姿を見せてくれます。

## ポイント

1200万年前に生息していた海牛の化石が、ほぼ完全な形で復元されたものとしては、日本でもっとも古いものです。体内の赤ちゃん海牛の石も一緒に発見されましたが、妊娠中の海牛化石は世界初の貴重な発見です。

### 五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

知る

海牛は、約5000万年前にほ乳類の有蹄類の仲間が、外敵から逃れるなどの理由で水中生活に適応したものと考えられています。

海草などを食べる草食動物で、現在は暖かい海に棲むジュゴン1種とマナティー3種しかいません。陸上動物では、象に近縁とされています。

### ■基本情報 (R7.3)

地質年代：1200万年前  
発見年：1967年  
発見地域：苫前郡初山別村明里

【初山別村自然交流センター】※レプリカ所在地  
住所：苫前郡初山別村字初山別155番地1  
TEL：0164-67-2136  
開館時間：9:00～22:00  
休館日：毎月第2・第4日曜日、年末年始